

特定非営利活動法人

Bangladesh と手をつなぐ会



ミロン

No.110

June
2007



特定非営利活動法人
 Bangladesh と手をつなぐ会
福岡市早良区西新5-4-20
TEL&FAX: 092-844-1369
ホームページ: <http://bangla.nngo.jp>

※「ミロン」は一つになる、
手をつなぐという意味のベンガル語です。

■ アジアの子どもたちの未来のために ■

Bangladesh と手をつなぐ会へあなたも参加しませんか

Bangladesh と手をつなぐ会では、 Bangladesh ・カラムディで
 現地の村人による開発のための委員会「シヨンダニ・シヨンスタ」と
 協力して【教育】と【医療】の分野で次のような支援活動を行っています。

教育の分野では

将来を担う子どもたちの
 教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設 【1987～89年】とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校へ行けない子ども達への奨学金制度
- ③ 職業訓練【ミシン】で技術を身につける
- ④ 教科書図書館【教科書が買えない中学生のために、
教科書の貸出】

医療の分野では

命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設【1995年】とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備【1998年～】
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修【1995年～97年】
- ⑤ 出産前女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回健診と衛生指導



国内活動では

夏の現地訪問、冬のスタディツアーを
 毎年実施しています。

- ① 会報誌【ミロン】の発行
- ② 定例会の開催【参加型学習会など】
- ③ 現地訪問の報告会の開催、報告書作成と記録ビデオの製作
- ④ チャリティコンサートおよびバザー
- ⑤ 総会【毎年4月、予算・決算と活動方針やその決定など】

20周年に向けて～総会ご参加、ありがとうございました。 8月現地訪問への協力をよろしく。

5月の総会が終了しました。総会には多くの方が参加してくれ、執行部提案の事業方針が承認されました。総会のあとの、矢野孝明君の講演は、現地で暮らした感性豊かな若者の話に、参加者の驚き、感動、納得が聞かれました。異文化の世界で暮らすということ、協力活動を行うということの意義とむずかしさを、あらためて感じました。

さて、いよいよ現地訪問の季節がやってきました。今年は、8月18日(土)から26日(日)の予定です。カラムディ村の人々、シオンダニの人々は、私たちとの交流を楽しみにしています。現地の抱える課題をともに解決していきたいと、一生懸命です。

現地訪問では、母子保健センターや村の学校、シオンダニ学校などを中心に見学と、協力活動を行い、またシオンダニのスタッフや村人たちと話し合いを行います。

母子保健センターの活動、村を回っての保健活動、シオンダニ学校の発展などは順調ですが、ジャパニ小学校の運営や医師・看護師の長期的確保など問題も抱えています。また、これからの<保健医療>や<教育>の活動について、一緒に方向性を考えることも、現地訪問の役割の一つです。

毎年、いろいろな人が現地訪問に参加し、人々とふれあい、カラムディ村を体験することで、多くの学びを得ています。今年も、熱い志を持つ方たちの参加を待っています。

(二ノ坂 保喜)



ミロン110号目次	
あいさつと目次	1
総会報告	2
矢野孝明氏講演報告 「バングラデシュで学んだこと～豊かさと貧しさの意味」	3
今年度事業計画	4～5
バングラからの手紙	6
チャリティーバザー報告・チャリティーコンサート報告	7
入会のご案内	8
会計報告・行事予定	9
募金のお願い&入会のお誘い	裏表紙

結成20周年へ向けての 07年総会無事終了

Bangladesh と手をつなぐ会、2007年度総会は、5月21日（日）NPOボランティアセンターセミナールームで開催されました。

先ずは二ノ坂代表より、20周年に向けての想いが述べられました。

——会としての活動が20年を迎えるが、この間、発展途上国（Bangladesh）の人々に医療教育活動を通じ、多少なりとも援助が出来た。なかでも単なる援助ということだけでなく、夏冬の現地訪問等を通じ、現地の人々と本当の意味の交流を深めてきた。現地と日本では経済価値の違い、文化の違い等色々あるが、村人に対する思い、交渉力、企画力、人間性等、現地の人々から私たちが学ぶことも多い。環境は異なるが自分たちに足りないことは学び、お互いの生活を切り開いていくことこそが本当の援助であり、活動のあり方だと思う。20年の歴史、良かったところ、悪かったところを思い返し、今年から来年にかけて見通しを持ち、会員の皆さんと共に、会・現地・国・色々な活動に取り組んでいきたい。

司会者より総会定足数について、会員120名中出席数23名、委任状提出者35名で定款上の5分の1以上の総会成立要件が満たされていることが報告され、議長に平山氏を選出、議案書に基づき淵上理事から06年度活動報告、中島理事から同年度会計報告を受け、質疑後、両報告を拍手で確認しました。

その後、二ノ坂代表から2007年度事業方針案、同年度活動計画案を淵上理事、同年度会計予算案を中島理事が提案し、3案は拍手で確認されました。

二ノ坂代表の提案の中で、国内活動の継続について、特に会員120名、賛助会員を入れても200名と平調状態が続いており、資金的にも厳しい状態であるだけに、20周年を契機として更なる組織強化を図り、募金箱を色々なところに置かせて貰う等、組織拡大と募金の強化が特に力説されました。

シンドンニシオンスタとのパートナーシップでは、特に現地との繋がり、現地の人と一緒に考え、日本と途上国が共に成長する組織を目指す事が強調されました。

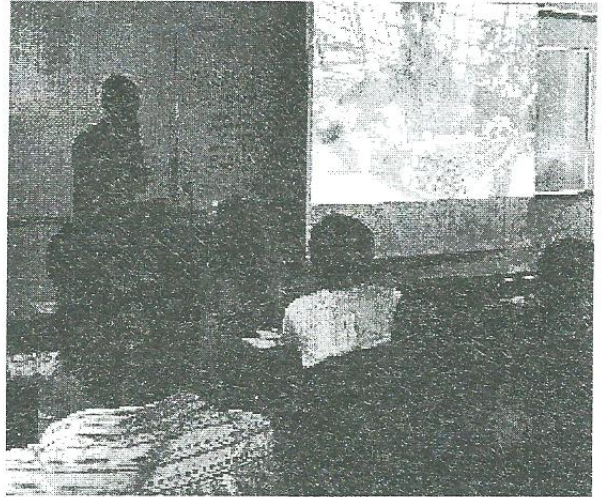
また、淵上理事からは、活動計画の提案の中で8月9日から18日としている現地訪問を運賃等の事情を考慮し、8月下旬と変更することが報告され、予算案の提案の中では、特に2006年の募金総額実績が1,847,156円にもかかわらず、2007年度に募金額3,000,000円としている点について、これを実現しなければシンドンニへの年3,000,000円の援助が出来ない状況であることが説明され、今後の活動の中で募金活動に力を入れて行く重要性が中島理事より強調されました。

【木村】

“目からウロコ” 矢野孝明さんの講演

5月13日総会の後に行われた矢野孝明さんの講話は、バングラ文化のものの考え方をめぐり、目からウロコのひとつでした。テーマは「バングラデシュで学んだこと～豊かさと言しさの意味」。教職にある矢野さんの教え子とおぼしき若い女性の一団も受講に加わり、矢野さんの歯切れよい江戸弁がさらにヒートアップ。

ガンジス川など3つの大河の氾濫と共存する、世界一の人口稠密な国。国民の8割が農村に住み、3世代が同居する大家族の集落の豊穡な村の暮らし。ベンガル人持ち前の演芸巧者とお茶の文化を楽しみながら、ゆったりと時間が流れる。



イスラム教は喜捨と助け合いを説き、酒や賭け事や利子をとることを禁じ、足るを知る禁欲の道德の教えであり、イスラム教といえば原理主義やテロを連想する偏見は失くすべきだ。

文化に優劣はなく、人種民族に高低はない。バングラが貧困というなら、それは医療と教育という人間の尊厳にかかわる領域の問題で、手をつなぐ会の役割がそこにあると矢野さんは強調された。

ところで私（松尾）は、バングラ社会では公共心や共同体の意識が低いのではないかと考えていました。

しかし、2006年現地訪問の二ノ坂先生の報告で、それが誤解であることに気づきました。母子保健センターの職員が早朝深夜も労を惜しまず、使命感と職場を愛する意識を持って働くようになり、職場の体制作りもあと一息のところまで漕ぎつけたとの話を聞きました。働く喜びと職場の共同体意識は、かつて日本の企業文化の根本をなしていました。今の日本では消滅しかかっていますが、母子保健センターの近況はかつての日本の企業文化そっくりで、これは欧米の文化とは異なるものです。日本とバングラ、異文化同士でも、人間の働く価値観は同じなのかなとこのごろ考えています。（松尾清美）

2007年度 事業方針**1) 国内の組織活動の強化**

ここ数年は会員の伸び率も平調で、資金的にも決して恵まれている状況ではありません。より多くの人に手をつなぐ会の取り組みを周知し、さらに賛同を得ていかななくてはなりません。そのために具体的に以下の取り組みについてのさらなる充実を図るとともに「更なる組織強化」を掲げていく必要があります。

ア) 国内活動の継続

バングラデシュの食生活を体験することによって文化的な理解を深めることを目的とした「料理教室」の開催、活動をより多くの人にアピールし、賛同者を得る機会となってきた「チャリティーコンサート」の開催、さらに民芸品などの展示、紹介など物を通じてのバングラデシュ理解に努めてきた「バザー」の開催などの国内イベントを今年度も継続的に実施していきます。さまざまな側面から積極的、かつ幅広くアピールすることで「より多くの人を巻き込んでいくこと」をテーマに多角的に企画を実行に移していきます。

イ) 開発教育の実践

バングラデシュと手をつなぐ会の組織としての取り組みや経験を県内外問わずに教育現場や地域などでの出張講座というかたちで報告していきます。社会還元活動の分野においても長年の経験をもとに寄与していくことが重要であると考えます。また開発教育の分野においても「現場の視点からの情報」を発信していくことで偏見や差別を生まない現地理解を推進し、「公正な国際社会の実現」を目指していきます。

ウ) 組織の機能強化

上記、対外向けの活動強化と同時に理事を中心とした「組織自体の機能強化」を図る必要があります。おかれている状況を冷静に分析する力を養い、理事間での情報の共有、さらには会員への周知という情報のホットラインの構築を立て直していきます。昨年度は初めての試みとして理事研修をおこないました。会の歴史を振り返り、理念や今後の展望について話し合いを重ね、その理解を深めました。今年度はそこで確認された事項について具体性を持って活動に反映させていきます。

エ) 関連団体との連携、協力

バングラデシュと手をつなぐ会の活動は決して単独的なものではありません。長年パートナーとして取り組んできている長崎の「母子保健センターを支援する会」との協力はもちろんのこと、各財団との連携などについては今年度も継続していきます。また毎年多くの団体の参加がある「地球市民どんたく」への参加や福岡地区の17団体が参加している「NGO福岡ネットワーク(FUNN)」の一員として他団体との連携、共催イベント実施や勉強会への積極的な参加を図り「地域の国際協力をリードするNGO」を目指していきます。

2) ションダニシヨンスタとのパートナーシップ

バングラデシュと手をつなぐ会の活動は現地 NGO「ションダニシヨンスタ」の活動を全面的に支持していきます。近年、現地状況の急激な変化とションダニシヨンスタの活動の成長について手をつなぐ会側がその現状を把握、理解できていない部分が多々ありました。現地からの報告、また現地訪問やスタディーツアーなどの現地との関わりについて見直しを図り「現地と同じ目線での取り組み」をテーマにして手をつなぐ会側がションダニシヨンスタに歩み寄る必要があるといえます。

ア) 現地活動の成長

具体的な現地での実績把握としては、医療分野活動の中心である母子保健センターにおいて昨年度は出産数、患者数、救急車の利用などの基本的な稼働率を計るどの数値をとっても確実な上昇がみられました。教育分野での活動において特記されることとしてガンニのションダニスクール^{Shonda Ni School}の活躍が目覚ましいものです。高校までのシステムが完成され、バングラデシュ全土でのディベート大会での優勝や郡奨学生の合格者数など地域では圧倒的な支持を集める学校へと成長しました。また子牛の奨学金について宇治理事が現地調査に出向き、昨年詳細な報告をもとにその確実な成果がみてとれました。

イ) 現地理解

現地からの報告については毎月、詳細なレポートが送付されてきます。それらの報告に加え、夏の現地訪問、冬のスタディーツアーによる直接の状況把握の機会を通じて現地情報の共有に努め、またそのつど議論を重ねてきました。これまでのスタンスを維持しながら今後も従来から目指してきた「共に歩むスタンス」をより強化していく必要があります。

ウ) パートナーシップ

またションダニシヨンスタの取り組みの充実と共にそのパートナーである日本側、つまりバングラデシュと手をつなぐ会自体の組織向上が求められていることは前述のとおりです。現地と共に成長する組織を目指していきます。

3) 活動20周年にむけて

バングラデシュと手をつなぐ会の活動は来年度(2008年)大きな節目でもある20周年を迎えようとしています。昨年度は活動方針において20周年を見据えた「ステップアップのための基盤作りの年」と位置付けられていました。理事研修をはじめ事務局会議や運営委員会においても「これまでの活動の振り返りと整理」を念頭に話し合いをすすめてきました。今年度はその成果を踏まえ、今後の長期的戦略を視野に活動を具体化させていきます。

現状においても国内外の活動における細かい問題点は山積みです。機関誌等で会員の皆さんにも随時現状を理解していただきながら、一緒に糸口を模索していきたいと考えています。

バングラからの手紙

今年度から、バングラデシュと手をつなぐ会の現地カウンタパートであるションダニ・シオンスタ関係者や村人たちの声や意見を、ミロンに掲載していく予定です。

今回は記念すべき第1号！ションダニ・シオンスタの奨学金を受けながら学校に通うイヤシン・アリーさんから届いた手紙を紹介します。

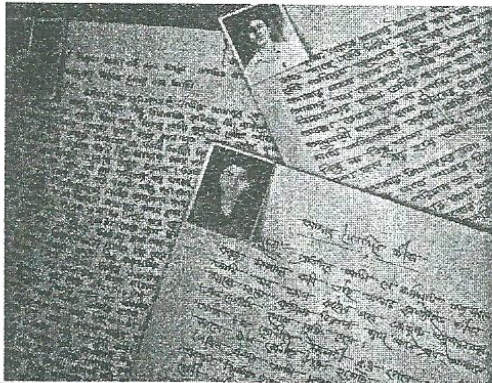
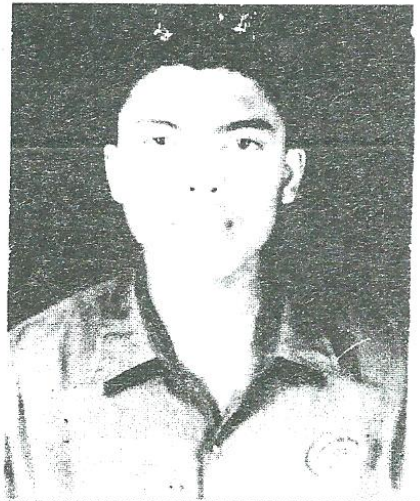


皆さまにもバングラの風が届きますように……

◆ イヤシン・アリーさん（カラムディ中学校 10年生）より……

私の家庭の経済状況はあまりよくありません。そのため、小学校3年生の時に経済的な理由で勉強を止めざるを得ませんでした。しかしションダニの協力で学校を継続することが出来、今10年生になることが出来ました。

8年生の時にガンニ郡教育委員会主催の優等生選抜試験に合格し、家族も学校の関係者の方々もとても喜んでくれました。私自身もとても光栄に思っています。



私は将来、人としてもっと大きくなりたいです。そのために二つのことが必要だと思います。一つは私の努力、もう一つは誰かの協力です。私はこれからも自分の目標を達成するために一所懸命に努力していきますので、ご協力やご指導よろしくお願いします。

～春のチャリティーバザー 無事終了～

【ご報告】春のチャリティーバザー売り上げは¥103,350ーでした！

今年も、春のチャリティーバザーを3月25日に実施することが出来ました。バザーの前に、昨年12月のスタディツアーに参加されたKさんよりカラムディ村の子どもたちと楽しくお手玉で遊んだツアーの報告があり、オカリナ教室「ひまわり」のみなさんとHさんの伴奏でミニコンサートは、春らしい曲など10曲を演奏していただき、13時からバザーを開始しました。

Kさんと一緒にツアー参加した大学生のお二人も売り子として参加。同じくツアーに参加したSさんは前日の値段付けと当日の後片付けに参加。そのほかにもバザーと言えば〇〇さん！と頼りになる方々が、ニコニコ笑顔で売り子として参加、3時すぎまで買い物客が続きました。

提供品のほかに、お野菜と漬物、パンケーキ、かしわ飯を協力販売していただき、皆様のご協力に感謝しています。

前日の大雨からか出足は悪かったものの、オカリナの音色に誘われて何事かと様子を見に来た方がいらっしやったり、Kさんのお手玉教室に参加した方がそのままバザーにも参加していただいたり、お客様に来てもらう工夫を凝らすことも大事なことだと実感しました。

バザー品の提供や、食べものの協力販売、売り子での参加などいろいろな面で会員の皆様のお力を借りながら、来年の20周年に向けての活動にも力をいれていきますので、これからもよろしくお願ひします。 【な】

～長崎でのチャリティーコンサート 正に天使の歌声～

5月19日、長崎のバングラデシュの母子保健センターを支援する会主催のチャリティーコンサート「歌とフルートの調べにのせて」に参加してきました。福岡から9名が参加しましたが、私は一昨年に続く2回目の参加でした。

今年はピアノとフルート、そして声楽から成るコンサートでした。モーツァルト主体のフルート演奏も素晴らしく、声楽、ピアノの伴奏と共に3人の呼吸はピッタリとあっており、感動もひときわでした。

そんな中で特に私の印象に残った曲がありました。主催者河内さんの「ご期待下さい。正に天使の歌声を紹介します」との挨拶通り、コロンえりかさんの歌声は素晴らしいものでした。

彼女は、作曲家であるベルギー人の父と声楽家の日本人の母のもとで、幼少より音楽の手ほどきを受け、10歳までベネズエラに住み、その後来日したそうです。長崎で原爆に被災して傷ついたマリア像に出会い、ショックを受けたこと。同じく当時被災した若木が、粉々になったガラス片等を抱えながら、生き抜いた資料館の展示品を見て、生きることの素晴らしさを感じたとのコメントに続き歌った父作曲の「被爆のマリアに捧げるアベマリア賛歌」には心から感動し、泣かされました。 【木村】

■入会のご案内

会員募集中

バングラデシュと手をつなぐ会にあなたも参加しませんか？

バングラデシュと手をつなぐ会では、バングラデシュ・カラムディ村の教育と医療への協力活動を支えてくださる会員を募集しています。

会員 会の運営にかかわり手伝い方：総会の議決権を有します。

会費 月額500円 年間6.000円

賛助会員 会の趣旨に賛同し、ご協力いただける個人または団体の方。

会費一口月額1.000円年間12.000円

※ 何口でも結構です。

会費振込先 郵便振替口座 01720-2-10442

加入者名 バングラデシュと手をつなぐ会

※入会をご希望の方は、以下の用紙にご記入の上、郵送またはFAXにてお送りください。

〒814-0002 福岡市早良区西新5-4-20 バングラデシュと手をつなぐ会

TEL&FAX 092-844-1369 <http://bangla.nngo.jp>

きりとりせん

■バングラデシュと手をつなぐ会入会申込書■

申込み年月日 年 月 日

フリガナ

氏名 _____ 男・女

生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 才

職業 _____

住所 〒 _____

電話・FAX _____ E-mail _____ @ _____

会員 協力会員 として入会を申し込みます。

会費は _____ 年 月分 から _____ 年 月分までの

_____ 円を 直接 郵便振替で納めます

<会計報告>

※募金協力 (敬称略)

今給黎 靖子 長沼 和子 古久保 ハルミ へのさかクリニック募金箱
 早良更生園 ひまわり トミタ ケイコ 野芥デイサービスセンター
 梶田 三枝子 平島 禎子 林 久美子 北島 弥太郎 古川由美子
 山田 不二子 山崎 清子 山口祥子

※医療募金 (敬称略)

坂本 キミ子

※産科病棟 (敬称略)

松尾 清美

※新会員紹介 (敬称略)

内田 節子 千蔵 美穂 鶴田 英子

(5月17日現在)

ご協力ありがとうございます

これからの行事予定

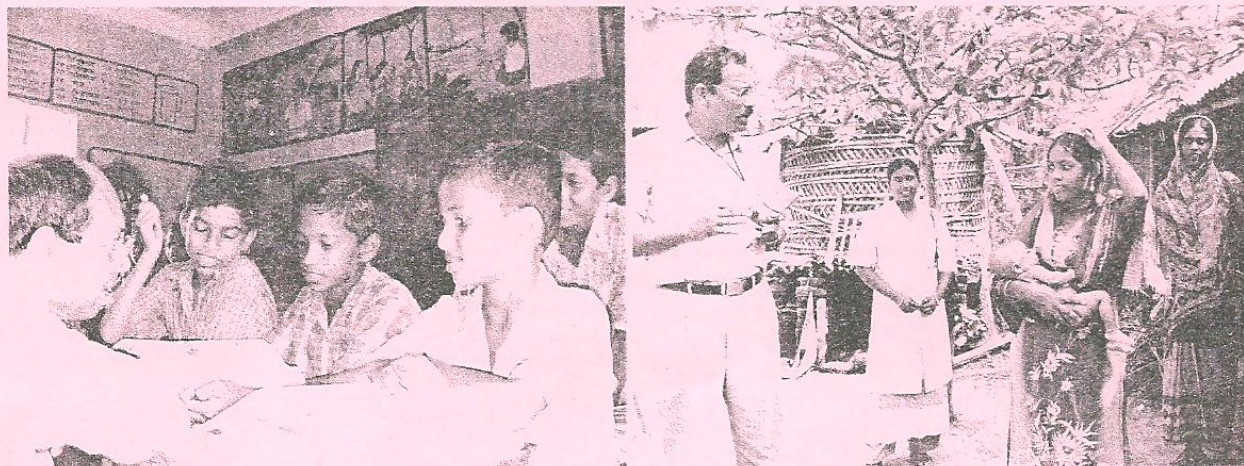
月 日	時 間	内 容	場 所
6月21日(木)	19:00~	理事会議	西新事務所
7月5日(木)	19:00~	理事会議	西新事務所
19日(木)	19:00~	理事会議	西新事務所
8月2日(木)	19:00~	理事会議	西新事務所
6月~8月		現地訪問勉強会 出発までに4、5回予定	西新事務所 他
18日(土) 26日(日)		現 地 訪 問!	福岡空港 バン格拉デシュ・ カラムディ村
8月30日(木)	19:00~	理事会議	西新事務所
9月9日(日)	10:00~	111号ミロン& 現地訪問報告書 印刷	へのさかクリニック
10日(月)	11:00~	ミロン&報告書 発送	西新事務所
9月13日(木)	19:00~	理事会議	西新事務所
27日(木)	19:00~	理事会議	西新事務所
9月30日(日)	13:30~	現地訪問報告会	NGO ボランティアセンタ ー<あすみん> セミナールーム※予定 《福岡市大名 2-6-46》

*** ボランティア募集 ***

印刷や発送のボランティアを募集しています。予定が変更になるときがございますので、ご協力いただける方、ぜひ当方へご連絡下さい。 ⇒ ※事務所 ☎092-844-1369

アジアの子どもたちの未来のために

「 Bangladesh と手をつなぐ会」では、 Bangladesh のカラムディ村で
現地の村人による開発のための委員会「シヨンダニ・シヨンスタ」と協力して
＜教育＞と＜医療＞の分野で協力活動を行っています。



Bangladesh と手をつなぐ会へ あなたも参加してみませんか？

親しむ

チャリティバザー(10月と3月)や
 Bangladesh 料理教室(1月)に
参加してみる

チャリティバザーに
物品を提供する
(随時受付)

募金をする

* 皆様のご協力をお願いいたします *

知る

現地訪問報告会(9月)や
学習会(不定期)に参加してみる

Bangladesh に行ってみる(8月と12月)

会員になる

(本誌8ページをご覧ください)

Bangladesh と手をつなぐ会では、現地活動を支援するためシヨンダニ・シヨンスタに毎年300万円の資金を送金しています。資金は、皆様方の会費、募金、バザー等のご協力で賄っています。